



工学部 教授 玉城 絵美先生

Q1.取り組んでいる研究・活動についての紹介

工学部の研究分野のひとつであるHCI（Human-Computer Interaction）研究をしています。技術的なサポートによって、部屋の中にながら世界中の体験を共有しあう世の中を作ろうとしています。いまでも視覚や聴覚をつかって体験共有することがありますが、能動的あるいは物理的に、外部に作用することはできません。そこで、物に触れたり物を掴んだりする時に感じる重量覚や抵抗覚などの固有感覚までを共有して、能動的に体験共有するBodySharingという技術の実現と、事業やサービスの普及に向けて、研究だけでなく会社の経営や事業推進を行っています。

Q2.研究の道に進んだきっかけ

ひきこもりだからです。外に出たくないのに、部屋の中にながら世界中の体験をしたいと思い、研究を始めました。研究の道に進むことは、色々な体験があった中で決めたことですが、その中のひとつに、体調を崩して琉大病院に入院した時の快適な入院生活があります。入院中、部屋の中にも色々な体験ができることがわかり、逆に体験できないことがあることもわかりました。そして、自分だけではなく、他の人も“体験”を渴望しているとわかったことも、研究を始めたきっかけになりました。

Q3.研究者を目指す若者に対して、「これだけはしておいた方がいい」ということ

色々な分野の人々を見て、観察してほしいと思います。“色々な分野の人々”とは研究や仕事に関係する人だけではなく、例えば、障がいをもたれていて部屋の外に出られない方や、逆にたくさん外に出る機会のある芸人さん、動物園で働いている方、弁護士さん...といった、自分とは全く関係のない職業の方々、全く関係のない生活をされている方々のことです。研究で得られた知見が、最終的にどのように生きている人たちの生活に関わっていくのかを想像して研究してほしいと思います。私は、普段の仕事とは全然関係のない仕事をする事で観察をしています。例えば、泡盛のCMに出演した際には、CM撮影をしている人はどんな感じなんだろう、どんな生活をしていらっしゃるのかなと観察しました。他にも、ボランティア施設に行って、ボランティアを受ける人たちやボランティアをする人たちが、どのような考えをもって、何をしているのか、できるだけ見るようにしています。もちろん私もボランティア活動をしますよ！

Q4.学生や研究者志望者におすすめの図書・雑誌

- ①『苦しかったときの話をしようか ビジネスマンの父が我が子のために書きためた「働くことの本質」』 森岡 毅
- ②『BODY SHARING 身体の制約なき未来』 玉城 絵美
※読むのに20時間ぐらいかかる本
- ③『ビジネスに効く！ 教養として身につけたいテクノロジー』 玉城 絵美
※1~2時間で読める本

